

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## エルマコーヴァ先生の業績

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2011-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1573">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1573</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# エルマコーヴァ先生の業績

業績表はエルマコーヴァ先生が2010年度に作成された業績一覧表をもとに、岡本が作成した。作成にあたって講演，研究発表など口頭によるものと書評は省いた。 (岡本崇男)

## 1. 著作 (原文はロシア語)

1. 『大和物語—ロシア語訳・注釈と研究』 東洋古文献シリーズ LXX。ナウカ，モスクワ。1982年。(単著，230頁。)
2. 『日本の神々の言葉と人々の歌—古代和歌における神話と儀礼』。ナウカ，モスクワ。1995年。(単著，271頁。)
3. 『古事記・中巻』。ロシア語訳・注釈と研究。『日本古典文学シリーズ』。シャル，サンクト・ペテルブルグ。1995年。(共著，11-141頁を執筆)
- 4 『日本書紀』 卷1-16。ロシア語訳・注釈と研究。『日本古典文学シリーズ』。ギベリオン，サンクト・ペテルブルグ。1997年。(共著，5-70頁および111-494頁を執筆)
5. 『近世ロシアで書かれた‘ヤパン’島に関する情報』。モスクワ。Yazyki slavyanskoi kultury 社，Series Minor, Studia Historica. 2005年。(単著，294頁)

## 2. 論文 (1977年より，単著，特別に記載のあるもの以外はロシア語が使用されている)

1977年—1984年

- ・「大和物語における歌と散文の関係」。『日本語日本文学の諸問題』 所収。

モスクワ国立大学出版社。1977年。

- ・「文学作品としての祝詞の形式的特徴」。『極東諸国の文学の諸問題』所収。ナウカ，モスクワ。1979年。
- ・「神道の世界観と日本古典文学の構造」。『東洋の文学論』所収。ナウカ，モスクワ。1983年。

#### 1985年—1989年

- ・「日本文化の伝統と20世紀」。『日本：科学技術革命の時代における文化と社会』所収。ナウカ，モスクワ。1985年。
- ・「神話的思考と日本古代文化の様式」。『日本文化における人間と世界』所収。ナウカ，モスクワ。1985年。
- ・「古代日本の詩歌（和歌）における儀礼と宇宙観」。『民族伝承と古代文学における古代儀礼』所収。ナウカ，モスクワ。1988年。
- ・「古代日本における神話的概念の文学的変容」。『東洋文学研究の理論的諸問題』所収。ナウカ，モスクワ。1988年。
- ・「万葉集における儀礼」。『テキストの民族言語学的研究』所収。ナウカ，モスクワ。1989年。
- ・「古代日本の詩歌（和歌）における言葉と音楽」。『日本：思想・文化・文学』所収。ナウカ，モスクワ。1989年。

#### 1990年—1994年

- ・「おしらさま」，「住吉大明神」，「むすび野神」，「大物主の神」，「神結びの神」，「高み結びの神」の項目。『世界神話大辞典』。モスクワ。Sovetskaya Entsiklopediya 社。1990年。412, 505, 372, 409, 272, 515頁。
- ・「続日本紀の宣命」。『アジア・アフリカの諸民族』No.5 所収。モスクワ。1990年。
- ・「禅と生きる芸術」。『外国文学』No.1 所収。モスクワ。1991年。

- ・「平安時代の和歌と物語における〈見る〉という神話的概念」。『一本の花の園』所収。ナウカ，モスクワ。1991年。
- ・「和歌における〈言霊〉，〈心〉と〈物の名〉の概念」。『オリエント』No. 1 所収。モスクワ。1993年。

#### 1995年—1999年

- ・「古代日本における儀礼書の三形態」。『東洋の宗教におけるテキストの機能』所収。ナウカ，モスクワ。1995年。
- ・「和歌の起源—神話と歴史—」。『第74回日文研フォーラム講演論集』。京都。1-30頁。1995年。（日本語）
- ・“Mysteries of the Ancient Texts and the Translator’s Lamentations.” *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*. No. XL. Tokyo, Kyoto. 1995年。（英語）
- ・「日本古代文学における〈体〉の概念」。『東洋の古代・中世における文体の理論』所収。ナウカ，モスクワ。1996年。
- ・“Naming and Seeing Things in Early Japanese Poetry.” *Proceedings of the 38th Permanent Altaistic Conference (PIAC)*. Wiesbaden. 1996年。（英語）
- ・「民族学者としてのネフスキー教授の遺作研究と解釈」。『ペテルブルクスコエ・ヴォストコヴェーヂェニエ』No.8。サンクト・ペテルブルグ。1996年。
- ・「日本書紀と古代日本文学」。『国際日本文学研究集会会議録（第20回）』。国文学研究資料館。東京。1997年。（日本語）
- ・「ロシア文学における和歌の概念 翻訳の文化論的アспект」。 *Japanese Slavic and East European Studies*. Vol.18. Kyoto. 1997年。（英語）
- ・「古代日本文学における時間の概念」。『東洋文学における形象の意味』。モスクワ，Vostochnaya Literatura 社，1998年。84-101頁。

- ・「和歌における空間の渦巻と他界への架け橋」。『国際日本文学研究集会会議録（第22回）』。国文学研究資料館。1998年。53-60頁。（日本語）
- ・「ロシア／ソ連における日本文学の輪郭—19世紀末期からエリセーエフまで」。『神戸外大論叢』第50巻，第3号。1999年。1-16頁。
- ・「ロシアと日本古典文学—翻訳における文化の変容」。『甲南大学文学部古代文学研究』4号。1999年。1-11頁（日本語）
- ・「翻訳者から—A. グルースキナ先生について」。『ズナコーミテシ，ヤポニヤ』。1999年，N4.
- ・「日本文学の自覚と古代文章」。『甲南大学古代文学研究 松前健博士喜寿記念論集』5号。1999年。28-36頁。（日本語による）

#### 2000年—2004年

- ・「サムスの運命—ロシアで最初に伝えられた日本についての話」。『時代の虜』。ナウカ，モスクワ。Vostochnaya Literatura 社。2000年。354-370頁。
- ・「文化の変容を表すテキストの境界—和歌のロシア語訳の歴史」。『ロシア国立人文科学大学』第4号—2。モスクワ。2000年。15-34頁。
- ・「ロシア人は日本人のことを初めて知った頃」。『世界が日本を見る 日本文化における美学的・論理的価値観』。Severo-Zapad 社。サンクト・ペテルブルグ。2000年。28-37頁，542-554頁。
- ・「ロシアにおける日本文学研究の展開と S. エリセーエフの役割」。『S. エリセーエフと世界日本学』。国際学会会議録。モスクワロシア科学アカデミー東洋学研究所・国際交流基金の出版。モスクワ。2000年。36-60頁。
- ・「17世紀のロシア文化に於ける古代スラブ文字で書かれた日本の記述」。『Acta Slavica Iaponica. Tomus XVIII, 2001. Sapporo, Japan 175-203頁。』
- ・「日本・ポーランド—最初のコンタクト?」。『桐』。大阪産業大学。2001年。N25.

- ・「プレトネル先生とエリサーエフ先生のある手紙について ロシア東洋学の歴史をめぐって」。『日露交流文集』。在日ロシア人研究会。東京。2002年。13-17頁。
- ・「日本古代文化における崇拝と信仰」。『日本の神々の道である神道』上巻。ギベリオン社, サンクト・ペテルブルグ。2002年。7-42頁。
- ・「日本文化における先祖の崇拝」。『日本の神々の道である神道』上巻。ギベリオン社, サンクト・ペテルブルグ。2002年, 43-59頁。
- ・「出雲の信仰と文化」。『日本の神々の道である神道』上巻。ギベリオン社, サンクト・ペテルブルグ。2002年。122-135頁。
- ・「中世神道論の問題について」。『日本の神々の道である神道』上巻。ギベリオン社, サンクト・ペテルブルグ。2002年。188-202頁。
- ・「日本の古代歌謡と初期文学における魔術的と美学的」。『日本の神々の道である神道』上巻。ギベリオン社, サンクト・ペテルブルグ。2002年。385-423頁。
- ・「伊勢大神宮と伊勢信仰」。『日本の神々の道である神道』上巻。ギベリオン社, サンクト・ペテルブルグ。2002年。409-423頁。
- ・「現代の祝詞の機能について」。『日本の神々の道である神道』上巻。ギベリオン社, サンクト・ペテルブルグ。2002年。689-702頁。
- ・「生きる勇気」。『芥川龍之介短編小説集』序。ギベリオン社, サンクト・ペテルブルグ。2002年。3-28頁。
- ・「アマテラスの崇拝と大和姫」。『文化人類学 論文集』。ムラヴェイ社, モスクワ。2002年。
- ・「谷崎潤一郎の未発表の書簡と来日ロシア人達。オレスト・プレトネル等」。『国文学』2002年8月号。東京。(日本語)
- ・「XVI世紀の日本とキリスト教のヨーロッパ」。Putyom kisti i mecha誌。モスクワ。2002年。N4。
- ・「天正遣欧使節とポーランド—隠された絆」。『日本研究』第27集。国際日

本文化研究センター紀要。2003年。71-90頁。(日本語)

- ・「古代儀礼におけるモノの概念」。『日本文化におけるモノ』。モスクワ。Vostochnaya Literatura 社。2003年。5-15頁。
- ・「現代神道のあるストラテジー」。国際神道学会。2003年。(日本語)
- ・「谷崎潤一郎の“ロシアの書簡”」。谷崎潤一郎, 『陰影礼賛』 ロシア語訳への序文。Severo-Zapad Press, サンクト・ペテルブルグ。2003年。
- ・「XVIII 世紀と XIX 世紀の前半におけるロシアと日本についての書物」。『神戸外大論叢』 54巻7号。2003年。
- ・「東洋学」。『ロシアを知る辞典 新版』。東京。平凡社。2004年。(日本語)
- ・「平安初期の和歌：登場人物とその発話」。『ロシアと日本—文化と国民の対話』(国際シンポジウムの会議録)。モスクワ。ナタリス社。2004年。
- ・「神と君主の年代記」(「古事記」, 「日本書紀」の話)。『千羽鶴』(VIII-XIX 世紀の日本文学のアンソロジー)。Azбуka-Klassika 社, サンクト・ペテルブルグ。2004年。
- ・「歌に関する話」(歌物語について)。『千羽鶴』(VIII-XIX 世紀の日本文学のアンソロジー)。Azбуka-Klassika 社, サンクト・ペテルブルグ。2004年。

## 2005年—2010年

- ・「神道の観念と初期の歌論のある問題」。『神道の連続と非連続』。国学院大学21世紀 COE プログラム。東京。2005年。(日本語)
- ・「ガラスの下においた赤紙に一枚」。『Casus』(歴史誌) 第六編。O.G.I. 社, モスクワ。2005年。179-207頁。
- ・「江戸絵画における‘モスクワ大公’と‘ネブア川に臨む川岸通り’」。中村善和等編, 『遥かなり, わが故郷—異郷に生きるⅢ』。成文社。2005年。225-328頁。(日本語)
- ・「日本古代文化のジャンルとしての宣命」。『古代日本の政治文化』。Ori-

- entalia et classica: VII.* RGGU, モスクワ。2006年。66-80頁。
- ・「古事記（神代記）におけるナラティブ構築の問題によせて」。上田正昭編, 『古事記の新研究』。東京。学生社。2006年。123-138頁。(日本語)
  - ・「江戸美術におけるロシアのイメージ」。『歴史・文学・芸術論叢』第4編。ロシア科学アカデミー歴史・文学科, モスクワ。2007年。154-165頁。
  - ・「声から記号へ：八世紀前後の歌詞」。『諸国文学における抒情詩—起源と展開』。RGGU, モスクワ。2007年。289-336頁。
  - ・「アイヌ人について語る未知の小説—テキストとその考えられるつながり」。 *Japanese Slavic and East European Studies*, Vol. 28. 2007. 49-78.
  - ・「センチメタリズム派のある忘れられた作品について」。 *Novyi filologicheskii vestnik* (『新文学研究論叢』) 2009年, N1(8), ロシア国立人文科学大学出版社, モスクワ。55-8頁。
  - ・「初期の和歌における音と文字の面」。『日本のモザイク』(V.N. グレグリヤード教授の追悼論文集)。ロシア科学アカデミー東洋写本研究所, ペテルブルグ, ギベリオン社。2009年。35-47頁。
  - ・「ロシアの掛け歌—khorovod について」。『アジアの歌と万葉集』(第6回万葉古代学研究所公開シンポジウム)。奈良県万葉古代学研究所。2009年。67-72頁。
  - ・「日本古代文学と《作者》の問題」。James C. Baxter (ed.), *Interpretations of Japanese Culture. View from Russia and Japan.* (『日本文化の解釈。ロシアと日本からの視点』)。国際日本文化研究センター。京都。2009年。45-56頁。(日本語)
  - ・「ロシアの歌文化と掛け歌のタイポロジーについて」。『万葉古大学研究所年報』。奈良市万葉古大学研究所。2010年第3号。61-76頁(日本語)
  - ・『神道大辞典—神々, 神社, 祭祀』。Orientalia et classica シリーズ。RGGU, モスクワ。2010年。研究論文:「日本の神話と神々について」, 「出雲の信仰」, 「万葉集」。その他80項目を執筆。

### 3. 現代日本文学の翻訳

#### 3.1. 小説, 和歌

- ・ 芥川龍之介, 「早春」, 「ひょっとこ」, 「猿蟹合戦」。『芥川選集』。フドジェストヴェンナヤ・リテラトゥーラ社。1972年。
- ・ 中村眞一郎, 「甦った恐怖」。『年代日本短編小説・1960-1970』。モスクワ, プロGRESS社。1972年。
- ・ 筒井康隆, 「公共伏魔殿」。『フィール叔父とテレビ』。モスクワ, イスクストヴォ社。1974年。
- ・ 森村誠一, 「人間の証明」。『現代日本推理小説』。モスクワ, プロGRESS社。(共訳) 1979年。
- ・ 坂上宏, 「優しい人々」。『現代日本小説文学』。モスクワ, プロGRESS社。(共訳) 1980年。
- ・ 宇都敏夫, 「赤いシクラメン」。『心の希望』。モスクワ, ラドゥガ社。1984年。
- ・ 稲沢潤子, 「踊っている風の日」。『心の希望』。モスクワ, ラドゥガ社。1984年。
- ・ 前田夕暮, 「短歌集」。『四季・現代短歌集』。モスクワ, ラドゥガ社。1984年。
- ・ 水谷順, 「ある決闘」。『日本推理小説集』。モスクワ, ラドゥガ社。1990年。
- ・ 黒澤明, 「蝦蟇の油」。『諸国文学』誌。モスクワ。1993年。
- ・ 長谷川伸, 「夜もすがら検校」。『虎の眼・現代日本時代小説』。モスクワ, イノストラナカ社。2004年。
- ・ 新田次郎, 「梅雨の将軍信長」。『虎の眼・現代日本時代小説』。モスクワ, イノストラナカ社。2004年。
- ・ 藤沢周平, 「虎の眼」。『虎の眼・現代日本時代小説』。モスクワ, イノスト

ランカ社。2004年。

- ・山本周五郎, 「裏の木戸は開いている」。『虎の眼・現代日本時代小説』。モスクワ, イノストラランカ社。2004年。
- ・杉本苑子, 「風車」。『虎の眼・現代日本時代小説』。モスクワ, イノストラランカ社。2004年。
- ・戸部新十郎, 「龍の雅」。『虎の眼・現代日本時代小説』。モスクワ, イノストラランカ社。2004年。
- ・逢坂剛, 「射影遙かな国」。サンクトペテルブルグ, アズブカ・クラシカ社。2006年。1-572頁。

### 3.2. 論文, エッセー

- ・中村雄二郎, 「日本文化における悪と罪」。『諸国文学』誌。1997年。
- ・山折哲雄, 「現代意識の諸問題: 宗教と無神論の間に立つ日本人」。『哲学の諸問題』。モスクワ。1998年。